

岡山県における地震・津波の記録

県内に発生した地震はマグニチュード5クラスが最大だが、活断層は津山盆地北部の、長さ30km程度のものを最大に、県北西部から南西部に小規模のものが分布している。また、山崎断層系のものが県北東部までのびており注意が必要である。

地震災害は、県外で発生したマグニチュード7から8クラスの地震(安政地震、北丹後地震、鳥取地震、北海道地震など)で発生している。極く一部ではあるが、県南部で震度6を記録している。

津波は、瀬戸内海に面しているため外海からの侵入は小さく、検潮記録は、チリ地震津波による最大全振幅21cmであるだけだが、古記録によると安政地震の津波は「丈余の海嘯があった」旨記載されていることから手放しの楽観はできない。

○ 震度4以上(岡山)の地震表(明治35年以降)

発生年月日	震度	被害	震央地名 (地震名)	規模 (M)
明. 38. 6. 2 (1905)	岡山4	被害なし	安芸灘 (芸予地震)	6.7
明. 42. 8. 14 (1909)	岡山4	建物その他に若干の被害あり ただし人的被害なし	滋賀県北東部 (姉川地震)	6.8
明. 42. 11. 10 (1909)	岡山5	県南部、特に都窪郡撫川町で被害大 死者2人、建物全・半壊 6戸 ひさし・壁破損 29戸等	宮崎県北部	7.6
昭. 2. 3. 7 (1927)	岡山4	県南部で家屋の小破損・屋根瓦の墜落20数件 煉瓦煙突の上部破損(上道郡平井村)	京都府北部 (北丹後地震)	7.3
昭. 9. 1. 9 (1934)	岡山4	県南部を中心に強く揺れ吉備郡庭瀬町では壁に亀裂を生じ土壁が倒壊した程度で県下全般に大きな被害なし	徳島県西部	5.6
昭. 13. 1. 2 (1938)	岡山3 (新見4)	伯備線神代駅近傍で岩石40~50個落下、貨車・家屋破損、下熊谷の小貯水池堤防決壊	岡山県北西部	5.5
昭. 18. 9. 1 (1943)	岡山5	北東部県境付近で小規模な山崩れ、がれ崩れ、地割れ、落石等あり	鳥取県東部 (鳥取地震)	7.2
昭. 18. 9. 10 (1943)	岡山4	(被害については、どちらの地震によるか判別できない)	鳥取県沖 (鳥取地震余震)	6.0
昭. 21. 12. 21 (1946)	岡山4 〔西大寺6〕	県南部、特に児島湾北岸、高梁川下流域の新生地の被害が甚大であった。 死者 52人、負傷者 157人 建物全壊 1,200戸、建物半壊 2,346戸 その他堤防・道路の損壊多し	紀伊半島沖 (南海地震)	8.0
昭. 27. 7. 18 (1952)	岡山4	被害なし	奈良県中部 (吉野地震)	6.8
昭. 43. 8. 6 (1968)	岡山4	被害なし	愛媛県西岸	6.6
平. 7. 1. 17 (1995)	岡山4 津山4	負傷者1人	淡路島 (兵庫県南部地震)	7.2
平.12. 10. 6 (2000)	新見・哲多大佐・美甘 落合 5強 19市町村 5弱 39市町村 4	震源に近い阿新・真庭地方及び岡山市の軟弱地盤地域を中心に被害が多かった。重傷5人、軽傷13人、住家全壊7棟、住家半壊31棟、住家一部破損943棟、その他水道被害、道路被害多し	鳥取県西部 (鳥取県西部地震)	7.3
平.13. 3. 24 (2001)	26市町村 4	軽傷1人、住家一部破損18棟	安芸灘 (芸予地震)	6.7

* 印の地震は、岡山震度3であるが県内発生のため特に記載した。

[]内は、当時の観測所とその震度を示す。

○ 津波の記録

1707年(宝永4年10月4日)宝永地震(M=8.4)

○大地震, 大風浪あり。(船穂町郷土史)

○大地震あり, 民家潰れ, 高潮起り, 死人多し。(牛窓郷土史)

○大地震……略……また大風, 潮水常より高きこと5尺と凶荒窮知すべきなり。(邑久郡史)

1854年(嘉永7年11月5日)安政大地震(M=8.4)

○劇震の際海嘯の徴あり, 一昼夜に潮水の進退およそ20~30回にして, 満潮の時, 一時平水より7尺余を増し, これがため本村南岸字瀬溝海峡(虫明一長島)の如きは, およそ3尺余の土砂をもって填塞し, 字扇浦に泥土2尺余を埋塞せり。……略……300余石積みの船舶を碇泊せしも今は漁船を入れるのみ。(邑久郡史の裳掛村記事)

1946年(昭和21年12月21日04時19分)南海道地震(M=8.0)

県下の津波の余波は, 最高潮が1メートル以下で被害はほとんどなかった。

○岡山測候所の面する旭川では, 06時から10時まで2回, 津波により相当の急流となって逆流したため小舟の運行は中止された。10時10分には津波の高さ0.4メートルを観測した。

○三幡港では, 当時変潮で引き潮, 満ち潮が交互に起り, 青土が潮と共に吹き上がり土手が作られたという。

○児島湾干拓地では, 0.6メートルくらい増しやや経って引き, 再び前より少ないが満ちてきた。